

書部官長

第三二

大正十年十月四日

宮内次官關屋貞三郎

樞密院書記官長二上兵治殿

通牒

天皇陛下御容體本日別紙之
通發表可相成候間御承
知相成度

九

宮内省

(十犬)

裏面白紙

陛下御容體ハ本年四月發表ノ當時ニアリテ
御榮養其他御身體ノ御模様御宜敷方
ニ在ラセラルレカ其後引續キ御静養中
ニシテ御體量御寢食等ハ依然御變リ
ナク入御後ノ御運動ハ日々遊ハサルモ
其時間減少シ通常御歩行ノ場合ニモ
側近者ノ扶助ヲ要セラルトアリ且御態度
ノ弛緩及御發語ノ故障モ近頃其度ヲ
増サセラル又動モスレハ御倦怠起リ易ク御
注意力御記憶力モ減退シ要スルニ一般

御容體ハ時ニ消長ヲ免レサルモ概ニ快方
ニ向ハセラルサル様拜察シ奉ル
陛下ハ御幼少ノ時腦膜炎様ノ疾患ニ罹
ラセラル且御生長ノ時期ヨリ御成年後
ニ於テモ屢々御大患ヲ御經過遊ハサレシ
爲ノ御孺生ヲ專一トシ御健康ヲ害セラ
レサル様御注意申上ケ爾來御健康ヲ
保タセラルルニ至レルモ大典ノ頃ヨリ御政務
多端ト相成内外御軫念遊サル事多
キニ隨ヒ御心身御過勞ノ爲ノ御精力幾

裏面白紙

分 衰ハサヤレ近時、於テハ前記、御容體
ヲ拜スルニ至ルハ、洵ニ恐懼ニ堪ハサルトコ
ロナリ